

病院で亡くなる人は約八割、しかし約八割の人は「自宅で死にたい」と答えています。安心できる在宅医療・在宅ケアの実際を知っていただき、病院でしか死ねない街から、在宅で安心して死ねる地域づくりへと進みたいものです。

「終活」としての在宅医療

かかりつけ医で人生が変わる



出前医者

太田 秀樹

聞き書き

蜂須賀裕子

住みなれた

自宅で

死にたい



でも、
そんなこと
できるの!?

「病院でしか
死ねない時代」から

「在宅で看取れる
地域づくり」へ

—時代が僕たちに
追いついた

2017年

3月中旬発売

A5版、144頁

定価

本体 1500円+税

もくじ

- 序章 超高齢国家「日本」と在宅介護
- 一章 僕たちがつくった在宅診療所
- 二章 「出前医者」の一日
- 三章 在宅医療の時代—時代が僕らに追いついた
- 四章 地域包括ケアの世紀
- 五章 「終活」としての在宅医療
- *コラム・写真多数、資料収録

地域のネットワークによる在宅ケアの哲学と実践の書

かがわ出版 〒602-8119 京都市上京区堀川通出水西入 TEL 075-432-2868 FAX 075-432-2869 <http://www.kamogawa.co.jp>

注文書

お名前

ご住所

電話番号

部数

冊

● 京都・かがわ出版 FAX075-432-2869

「終活」としての在宅医療

かかりつけ医で人生が変わる

太田秀樹著

ISBN 978-4-7803-0905-8 C0036

定価
本体 1500円
+税

在宅医療は コミュニティーの再生

『「終活」としての在宅医療』

太田秀樹・蜂須賀裕子 ● 著 (発売:かもがわ出版) 1,500円(税抜き)



在

宅医療の草分けでもある太田秀樹医師。本書は元外科医だった

太田医師が、約20年以上になる「出前医者」人生を振り返ったものだ。

父は開業医だった。家族だらんのと
きに両親がこんな会話をしていたという。
「いつも来る患者の〇〇さん最近来ない
ね」と父。すると母が「ご病気がしら?」
とまじめな顔。動けないから医療が必要
なのに、それができないとしたらこれ
は問題だ、医者の方が出向けばいい、
それが一つのきっかけになったという。

患者も自宅では主役だ。腰痛の患者
にはコルセットをこれみよがしに巻いたら
満足げ。腰痛の原因は漬け物石だった
が、嫁をはじめ皆が心配してくれ、患
者は「アハハ」。

太田医師は「照れずに白状すると、
患者さんと信頼関係が築ける医師を目
指したいと思った」とも。在宅医療で実
現したかったのは、暮らしの中に医療を
届けることだけではなく、その家族が、
人々の暮らしが、地域が変わる「コミュニ
ティーの再生だったことが分かる。